

**ぎふ農業・農村を支える人材育成****■5年目の認定新規就農者 次なるステップとして農業経営改善計画作成説明会を開催**

今年度、下呂地域では4名の認定新規就農者が青年等就農計画の有効期限を迎えます。農業普及課では、今年度当初から4名を対象に次へのステップとして認定農業者となるよう誘導してきました。

12月21日と2月5日には、認定農業者を希望する3名を対象に、農業経営改善計画認定申請書の作成説明会を下呂市農務課とともに開催しました。

当日は、農業普及課で準備した「今までの農業経営を省み、今後の農業経営の方向を考えるためのシート」を用いて、今後5年間の方針の概略を共有し、具体的な手段について一緒に検討しました。

また、農業版BCPやGAPなど農業経営を維持・発展させる内容についても情報提供をしました。

説明会後は、新規就農者が作成した申請書案を1～2回確認し、より充実した計画になるよう支援しています。また、3月初めには下呂市農務課へ案を提出する予定です。

農業普及課では、今後の農業経営の方向が盛り込まれた計画が4月1日付けで認定されるよう、下呂市農務課とともに伴走支援をしていきます。  
(地域支援係)



【説明会の様子】

**■新規就農者等 下呂地区農業担い手交流会を開催**

下呂市では、夏秋トマトで新規就農される方が毎年数名あり、産地が若返り、活気が出ています。

2月7日には、下呂地区指導農業士会と下呂地区青年農業士会の共催による下呂地区農業担い手交流会が下呂市内で開催され、新規就農者、農業研修生、関係生産組織、JAひだ、下呂市、県の関係者46名が出席しました。

まず最初に、下呂農林事務所の副所長から今年度新規就農した2名に清流の国ぎふ農業担い手証書と記念品が授与されました。その後、お二人から新規就農に至った経緯や今年度トマト栽培をした感想や今後の夢などについて、自己紹介がありました。

次に、新規就農2年目、6年目の2名のトマト農家から就農後の状況や将来の夢などについて事例発表がありました。

お二人からは、「毎年テーマを決めて栽培に取り組んでいる。パートを雇用してから仕事がすごく楽になった。就農後も地域の人に大変お世話になっており、何らかの形で地域に恩返しをしたい。就農後困った時は研修先の農家や普及指導員、JAの営農指導員に助けてもらった。もっとトマトの知識を高め、高収量が取れるように頑張りたい。」などの話があり、真剣に営農活動や地域貢献に取り組む姿勢を垣間見ることができました。

農業普及課では、今後も農業研修生や新規就農者に寄り添い、栽培技術や農業経営などの助言、指導を行い、早期に営農定着ができるよう支援を行っていきます。  
(農業普及課)



【参加者全員での写真撮影】

## 安心で身近な「ぎふの食」づくり

### ■水稲 中山間地域次世代米ブランド育成事業の検討会を開催

水稲では、近年の地球温暖化に伴う気温上昇により、白未熟粒の増加など高温障害による米の品質低下が懸念されます。そこで、農業普及課では昨年度から、高温障害が少なく整粒率が高い新たな良食味品種の検討を進めています。

2月22日には、下呂市へ導入する有望品種を決定するため、JAひだ、下呂市、県関係機関で品種検討会を開催しました。

検討会では、各関係機関・団体に収集した「ゆうだい21」、「きぬむすめ」の情報を共有し、整粒率や収量及び食味などを基に検討を行いました。

農業普及課からは、今年度実施した品種試験や施肥試験の結果について情報提供を行いました。出席者からは、「今年度は気温が高く、高温障害の多い年であったため差が出ている」、「試食アンケートの結果で、きぬむすめの評価が高い」といった意見がありました。

検討の結果、出穂期が8月上旬の高温時期を外れ、整粒率・味度が高い「きぬむすめ」を下呂地域の有望品種とすることで合意しました。

今後、農業普及課では、「きぬむすめ」の地域への導入・普及に向け、栽培技術の確立や販売体制の整備など、関係機関・団体と連携し取り組んでいきます。  
(地域支援係)



【成熟期のきぬむすめ様子】

## ぎふ農畜水産物のブランド展開

### ■南飛驒コーン 下呂市スイートコーン研究会の検討会を開催

2月28日に、下呂市スイートコーン研究会の検討会が行われました。

検討会では、今年度の栽培の振り返りの他、今後の研究会の方針などについて検討を行いました。

検討の結果、南飛驒コーンの知名度や生産者の責任意識の向上を図ることを目的に、来年度から商品名を「南飛驒コーン」と記載し、生産者名、生産地、電話番号が入ったシールを商品に貼ることが決定されました。

また、安全・安心な南飛驒コーンの消費者への提供や、過熟品など事故品の混入防止のため、日々の栽培管理状況を記録した栽培履歴を作成し、出荷前に農業普及課へ提出することも決定されるなど、活発な意見交換の場となりました。

今後、農業普及課では、検討会で決定した事項を取りまとめ、全生産者に周知するとともに、南飛驒コーンの生産・販売が増加するよう技術指導や助言などの支援を行っていきます。  
(地域支援係)



【検討会の様子】